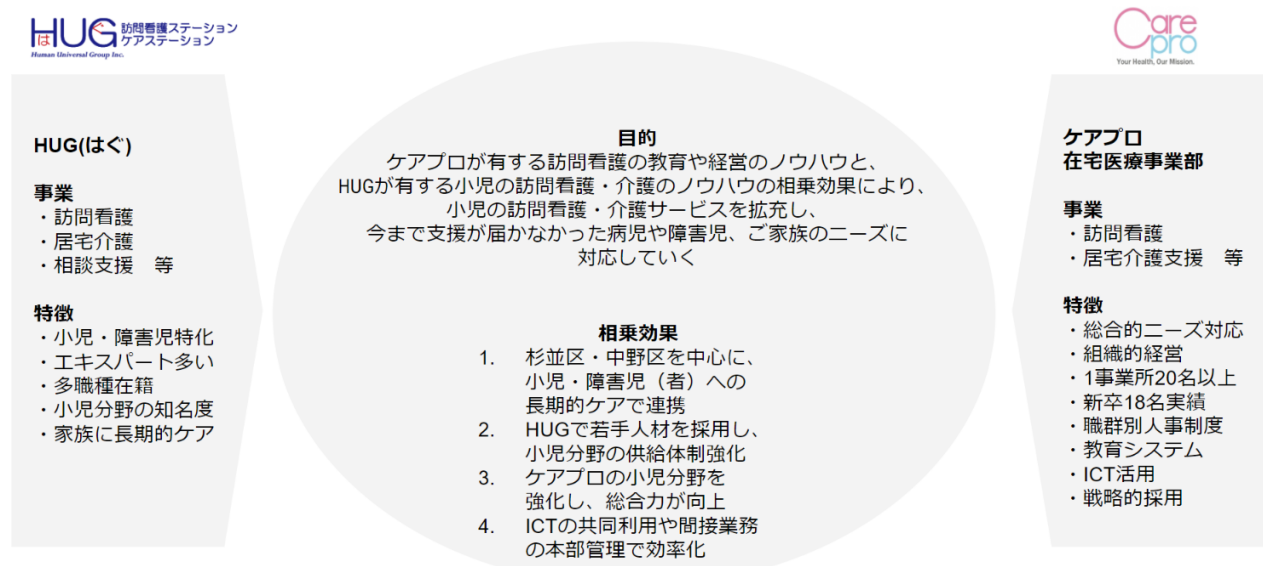


東京都杉並区で小児専門の訪問看護・介護 HUG(はぐ)を運営する エイチ・ユウ・ジーをケアプロが事業承継

ケアプロ株式会社（東京都中野区：代表取締役 川添高志、以下「ケアプロ」）は、小児の訪問看護・介護のスペシャリスト集団である株式会社エイチ・ユウ・ジー（東京都杉並区：代表取締役 上蘭真由美、以下「HUG」）の全株式を取得しましたので、お知らせします。

1. 本件株式取得の目的

ケアプロが有する訪問看護の教育や経営のノウハウと、HUGが有する小児の訪問看護・介護のノウハウの相乗効果により、小児の訪問看護・介護サービスを拡充し、今まで支援が届かなかった病児や障害児(者)、ご家族のニーズに寄り添うことを目指しています。



2. 本件株式取得の背景

背景として、以下の社会的課題が存在しています。

●少子化社会において、医療依存度の高い重症児が増加

厚生労働省によると、平成30年の医療的ケア児の全国総数は19,712人となり、過去10年で2倍に増加している。小児の訪問看護利用者数のうち、難病や医療的ケアに該当する者の割合は、平成23年に比べて平成29年は約2.7倍である。在宅の医療的ケア児のうち48%が訪問看護を利用し、45%が居宅介護を利用している（厚生労働省中医協資料R1.7.17資料より）。

●小児に対応できる訪問看護事業所が必要だが、地域格差がある

「第7次医療計画 在宅医療の体制構築に係る現状把握のための指標例」において、小児の訪問看護を実施できる訪問看護事業所数が指標として設けられている。そのような中、「都道府県別の在宅療養児に対する訪問看護ステーションの需給状況（西ら、2015年）」では、20歳未満の人口10万人当たりの20歳未満の在宅療養児への訪問実績のある訪問看護ステーション数には、都道府県間で最大6.3倍の差が存在している。

●小児に対応できる人材育成が課題

「緩和ケアに関して専門性の高い看護師が行う訪問看護師と同行訪問の実施可能性（清水ら、2014年）」によると、0歳から18歳の在宅療養児への訪問看護を実施していない訪問看護ステーションが在宅療養児の訪問を実施しない理由は、「小児訪問看護の経験がある職員がいない」「小児看護を担当する職員がいない」を合わせて62.2%であった。

●小児経験者でなければ難しいという常識

小児の訪問看護・介護事業所では、小児分野での経験が採用条件となっている事業所が多く、たとえ、未経験で小児の訪問看護・介護の事業所に就職したとしても、定着が難しいという専門家の声が聞かれる。

●事業承継の課題

令和2年に訪問看護ステーションは11,931箇所が稼働しており、過去10年で2倍に増加している。しかし、令和元年の新規数1,376箇所であるものの、廃止数526箇所であり、事業継続や事業承継の課題がある。HUGのように利用者もスタッフも順調に増え、経営も良い状態で事業承継できるケースが、今後のロールモデルになればよいと考えている。

3. ケアプロについて <https://carepro.co.jp/>

「革新的なヘルスケアサービスをプロデュースし、健康的な社会づくりに貢献する」をミッションに、予防医療・在宅医療・交通医療の3つの事業を展開しています。在宅医療事業部では、「在宅医療の課題を解決し、“私らしくいきたい”を支える社会を創造する」をミッションに、中野区と足立区を中心に『総合訪問看護ステーション』を展開しています。訪問看護業界において、常勤換算5名以下の事業所が4割の中で、ケアプロは45名であり、大規模事業所として教育の充実とICT化を推進し、がんや難病などの多様な利用者の“私らしくいきたい”を支えています。

4. HUGについて <http://station-hug.jp/>

「病児や障害児者の生きやすい、暮らしやすい社会の実現に貢献する」をミッションに、杉並区を中心に、訪問看護や在宅重症心身障害児(者)レスパイト、居宅介護、重度訪問介護、移動支援、通学支援、障害児相談支援、特定相談支援等を提供しています。看護師や介護福祉士、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士などが32名おり、小児看護・介護のスペシャリスト集団です。

本件を通じて、今まで支援が届かなかった病児や障害児(者)、ご家族のニーズに寄り添うことができると考えています。今後、ケアプロでは、HUGと共に、両社のミッションやビジョンに向けて、力を合わせて取り組んでいきます。

〔メディア掲載・取材に関する問い合わせ先〕

ケアプロ株式会社 在宅医療事業部 広報担当

お問い合わせ：TEL 03-6696-9789